

令和元年度（平成 30 年度分） 学校関係者評価報告書

テクノ・ホルティ園芸専門学校 学校関係者評価委員会は、「令和元年度（平成 30 年度分）自己点検・自己評価報告書」に基づいて、学校関係者評価を実施したので、下記の通り報告します。

1. 学校関係者評価委員

（委員長）村山 忠	公益社団法人 園芸文化協会 事務局（元事務局長）
（委員）大久保茂徳	公益財団法人 埼玉県生態系保護協会 会員 テクノ・ホルティ園芸専門学校 講師
鈴木 靖子	公益社団法人 日本家庭園芸普及協会 グリーンアドバイザー 東京テクノ・ホルティ園芸専門学校 講師
星野 学	本校卒業生代表、花屋「朧月」代表
岡部有希子	本校卒業生代表（欠席）
（事務局）伊東 政信	学校法人伊東学園 理事長 テクノ・ホルティ園芸専門学校 校長
古谷 民子	同 教務部長

2. 実施日時 令和元年 12 月 25 日（水） 14:00～16:00

3. 令和元年度（平成 30 年度分）自己点検・自己評価における学校関係者評価

1) 教育理念・目標

情報公開は行っているが、引き続き理念・目的・育成人材像などは外部に発信し続けること。

2) 学校運営

大よその運営方針や事業計画は定められているので、適宜見直して改訂を行いながら、それにそった運営をすること。

3) 教育活動

- ・引き続き教育課程編成委員会での意見や世間の動向をふまえながら常に最善のカリキュラムとなるように編成してほしい。
- ・園芸、農業の業界の状況も変化してきている。その変化に応じたカリキュラム、授業内容を検討していかなければならないだろう。
- ・生産分野の授業では、可能な限り外部の見学や研修を取り入れ、最先端の知識や技術を身につけさせてほしい
- ・専門コース以外の園芸に関する知識・技術を一通り学べるということは、仕事をする上では役に立つため、継続してほしい。

- ・それにともない、「テクノ・ホルティを卒業すると専門以外のことも何でもできる」ということを上手く情報発信すべきである。
- ・農場生産物の販売やフラワーデザインの作品についての人気投票など、学生たちの成果を客観的に評価できる体制は少しずつ整っているようだが、生産などでは品評会への参加や市場への出荷などより多くの機会が設けられると更に良いであろう。
- ・引き続き、学生が自主的に様々なことに取り組めるような雰囲気醸成や制度の整備に努めてほしい。
- ・農業高校出身の学生（入学希望者も含めて）には高校よりレベルの高い教育内容を提示しなければならない。
- ・講師とのコミュニケーション、講師への情報提供については密にすべきであろう。

4) 教育成果

- ・就職率、資格取得率は高い水準を保っているので評価できるが、今後は数値だけでなく質の向上も図っていくことを期待する。
- ・特に就職の質の向上ということに関しては、生産分野の就職先の新規開拓が喫緊の課題であり、具体的に進める体制づくりが必要だろう。
- ・学生が在学中にできるだけ多くの資格を取得できるように、資格対策授業や受験案内を提供していることは評価できるが、学生が自ら積極的に取得するように指導していくと良いであろう。

5) 学生支援

- ・学生からの相談を担任やコース担当が担っているが、学生対応の負担が大きくなることや教員では対応が難しいこともあるため、カウンセラーの採用についても前向きに検討していくとよいであろう。
- ・同窓生への支援体制はまだ整っていないが、できる範囲から整えていってほしい。
- ・同窓生に対する講座の実施を是非検討してほしいが、その際ニーズをつかむことが重要である。

6) 教育環境

- ・引き続き農場の施設・設備については経営上可能な範囲で整備を続けていくべきである。
- ・3) 教育活動にもあげたが、最先端の知識や技術は外部での見学で補うことはできるため、最低限の施設・設備の整備はきちんとすべきである。また、外部から機器等を譲り受けるなどの工夫も必要であろう。

7) 学生の募集と受け入れ

- ・募集活動そのものは問題なく行われているとはいえ、それが学生数の増加という結果に結びついていないのが現状であるため、学校としての危機感を持つべきである。

- ・高校の進路相談室では、教員が進路先として薦めない学校を名指しであげることもあるため、高校に対する PR としても教育活動、教育成果を充実させなければならない。
- ・正規課程以外にも世間のニーズをふまえた課程も検討すべきである。

8) 財務

- ・中長期的な安定を図るうえでも、特に学生数の増加に全教職員で注力すべきである。

9) 法令等の遵守

- ・学校情報は公開しているので、有効に活用し積極的に問題点の改善につとめてほしい。
- ・最近はあるゆる企業・団体等で倫理観が欠如した状況がみられることから、特に個人情報などを扱っている学校においては、一切の問題がないように常に点検し対応していくべきである。

10) 社会貢献

- ・地域の講座等は実施しているようなので、引き続き学生をアシスタントにつかせるなどしてコミュニケーション能力の醸成にも役立ててほしい。
- ・近年、自然災害が頻発していることから、社会貢献の一環としてボランティアの体制を整えていくことも検討してはどうか。

3. 総評

上記 10 項目について、テクノ・ホルティ園芸専門学校の教育活動、学校運営は概ね問題なく行われていると評価します。ただし、学生募集に関しては学生数の増減は財務だけでなく教育活動や学生支援、教育環境など、多岐にわたり影響を与えることから、引き続き教職員一丸となって学生数の増加に努めることを望みます。

以上